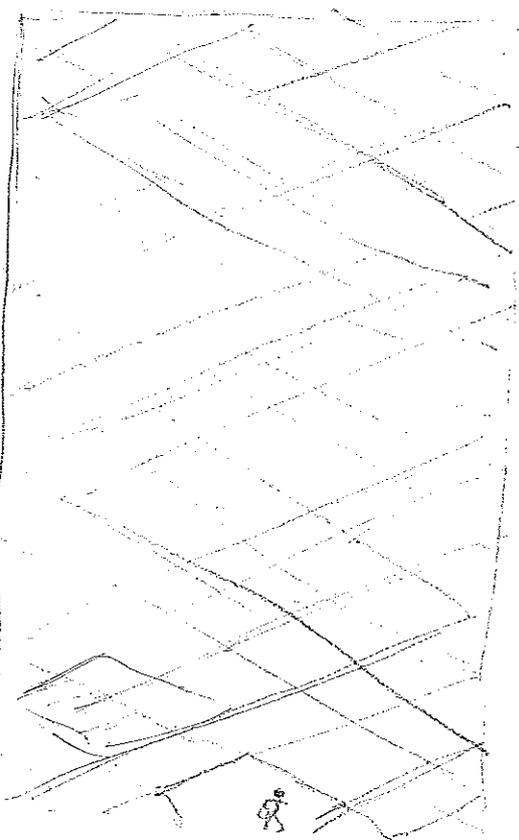


ウォークラリー 5/29

下吹越ゼミ

10/11/24 宮竹公大

僕たちの下吹越ゼミは、表参道駅周辺にある有名な建築物  
を見学しました。どれも独特すぎて、とてもおもしろく、次の建築物  
が見れることに、じや、か人楽しみにしている自分がいました。  
特にその中でも一番感動した建築物は、高級ショッポ店の  
PRADAです。すべての素材を外国から輸入していることで、  
すごい金がかかっているんだとびっくりし、その建築物の土台には、  
大きな地震にも耐えられるように、ゴムと地ばりとの間に  
入れました。でも、やっぱり一番すごーいと思っただのは、外観です。  
とても複雑な形をしており、どうやって作られているのか  
今だに考えてもわかりません。まさにパーフェクトすぎました。  
このウォークラリーを通じて、建築のすばらしさを改めて  
感じました。この建築物に  
たくさんのお時間をかけて、人を  
感動させた一軒へと思いま  
した。今は、まだまだそんなレ  
ベルじゃないけど、これから  
がんばっていきたく思いま  
した。そして、いろいろな  
建築物を見ていきたいです。



# ワークラリー：レポート

ICN/125 宮原 淳

私たち下吹越ゼミは、表参道周辺の建築物を観て周  
回した。その結果に残ったのは“PRADA”のSHOPです。

その壁はガラス張りで、ひし形状の模様とが、

単純に同じパターンを作るのではないで、

ガラスを拭き掃除するに外側へ盛り上がり、デザイン性を

あげている。初めてみるデザインでとても感動した。

(写真) 写真のものは、明かしたものと

違っていた。ガラスの形状も、おもしろい工夫が

たくさん、いじられているものは、違ったものに

感じ、視界、電気があふれ、高かったです。

ワークラリーを通じて、等々を学ぶことができました。

これから建築の道に進みたいと思います。

「導入ゼミ」 (所属：下吹越先生)

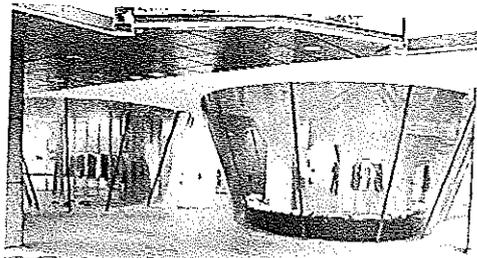
## ウォークラリー (表参道)



10N1127

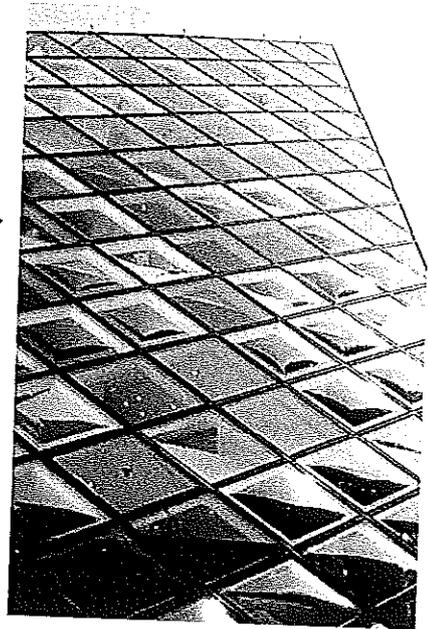
関 松 伊

ミン ソン イ



「コムデギャルソン」の下は独特の曲線を持っているし、お客さんたちのプライバシーのために丸い模様の穴があった。ブルーの色で若い感じがありました。さらに、建物のしたし、川が流れている感想も与えた。

「PRADA」の建物は、凸のガラスと平面のガラスの組み合わせがすごく好きでした。凸のガラスだけとか、平面のガラスだけが与える感じ以上でした。また、反射ガラスじゃないので、建物の透明さが見えました。もちろん、ガラス特有の反射はあった。その日は雨が降る日だったので残り多かった。また、ライトアップして反射される硝子も感じて見たい。(光の屈折とか)

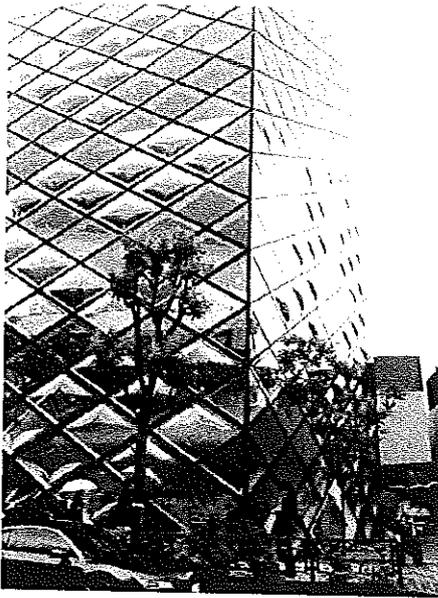


「Louis Vuitton」の象徴であるトランクかばんを隠喩的に表現した「Louis Vuitton」の売場も面白かった。また、「Burberry」から日本の60年代の建築様式 (Metabolism) を見られて良かったと思う。

表参道ヒルズを含めて安藤忠雄の建物を見たが、その特有の露出コンクリートが嬉しかった。索莫な灰色都市でコンクリート建物はもっと不毛な都市のように見えるかも知れない。しかし、彼ばかりの感覚で粹な感じを表現した。実際に触って見たら、見ることと違うようにコンクリートの壁は冷たくなかった。

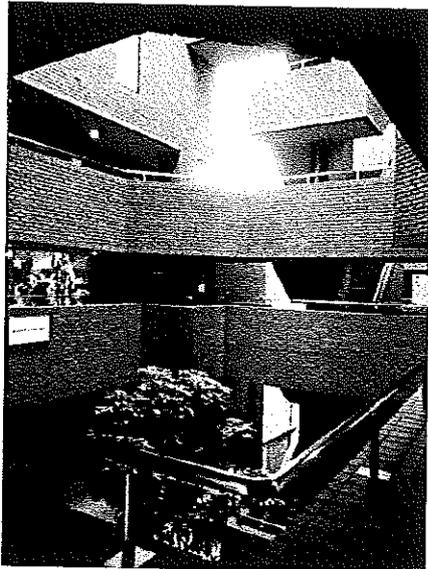
「Dior」の売店は建物全体が外からは見えない構造だった。まるで白の薄い膜を着せておいたような姿だった。全面硝子が与える透明性や涼しさは探しにくかったが、それなりの夢幻的な雰囲気は良かった。また「Cartier」の売場はダイヤモンドを形状化させたような姿で、「Cartier」の高級な雰囲気を漂っていた。その隣の「Omega」建物も雄大なオルガンを見るような感じだった。少し、奇怪ながらも雄壮な感じが良かったと思う。

全体的に表参道は建築家たちのギャラリーみたいだった。狭い美術館ではない足で歩いて通いながら見た建物一つ一つは忘れることができないようだ。またブランドのロゴより建築物そのものの目立つ点が本当におもしろかった。また今度ウォークラリーは時間が短くて表参道を詳しく見られなかったことが惜しかった。次には夜に訪問してライトアップした建物の姿も見たい。



YOKU MOKU

この建物の壁に使われている、タイルの色について教えてもらった。この色はいい味を出しているブルーであるが、塗料に有害物質を含んでいることが後から分かったため、今後は使われることがない。きれいな色だった。色に深みがあって、程よいムラがあって、ツヤがあって。



PRADA

全面がひし形のガラス張りで、ところどころに外側に突き出たガラスがあった。建物の前の歩道を通ると、上品な店内の様子がよく見えたり見えなかったり。形にこだわるためには、構造をよく考えなければならないことを学んだ。弱い壁面を支えるために中にはチューブのような柱、梁が複雑に絡み合っていた。また、地震対策として建物の下に免震装置があるという。そのために、周りの土地との間に排水溝のような溝(緩衝)があった。



FROM-1st

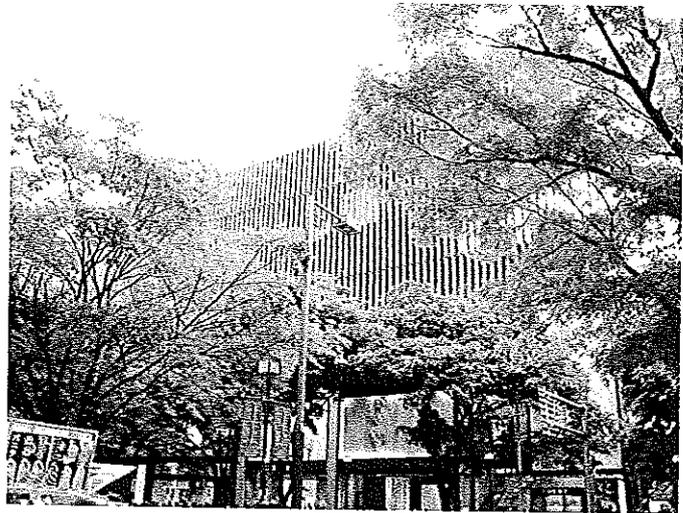
一番ここが気に入った建物だった。1,2,B1階にお店が入っているが、一般の人が住むマンションだった。真ん中に吹き抜けがあり、吹き抜けの底には中庭がある。0.5階があるため、二つの階段とフロアの間隙間ができ、光がよく差し込み、赤茶の煉瓦が暖かい雰囲気を出し、気持ちが安らぐ。こんなマンションに住みたいと思ったと同時にこんな建築をつくりたいと思った。

今回のウォークラリーで様々な建築を見た。どれも“自分はこうしたい”みたいなコンセプトが伝わってくるものが多かった。その土地の環境の中で自分を出すというかそんな感じだった。“自分の出し方”をもっともっと勉強しなければいけないと感じた。自分が本当に正しいのかという部分も含めて。

### 根津美術館

古い感じと新しい感じとが混ざって、何か不思議な感じがありました。  
人々を都市の喧騒から静寂なアートの空間へと引き込む空間を作り出していました。  
緩やかな勾配の屋根が作る影によって、都市の商業空間と木々の空間をなだらかにつなげていると感じました。

根津美術館は隈研吾さんが設計した建物です。  
隈研吾さんが設計した建築はケヤキの並木道にもありました。それはその空間にぴったりの建築ですばらしいと思いました。両方ともうまく木を使っていてすごい参考になると感じました。



### コレツィオーネ

円筒に直方体を組み合わせていて、その隙間から創りだされる空間がとても良かったです。隙間を回廊、螺旋階段。階段状の広場が迷路のように繋いでいました。この構造は一般の人には使いにくいと感じました。



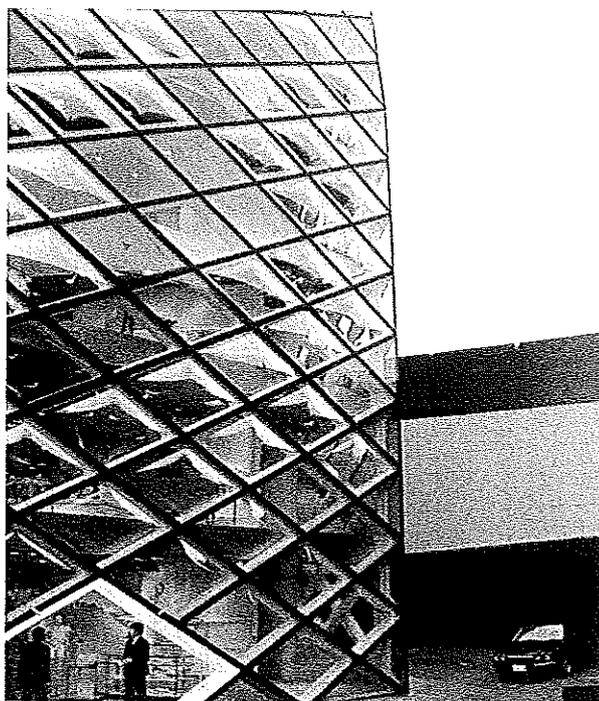
### フロムファースト

さまざまな高級ブティックが並ぶ商業建築です。さまざまなブティックが入っているのでひとつの街のような感じがしました。また、各階で雰囲気違って、見て回るのが楽しかったです。一つのブランドの建築ではないので、看板がありました。フロムファーストは商業空間・オフィス空間・住居空間を兼ねた規模の大きな複合建築としては当時の代表作に挙げられる。



### プラダ

その建築がブランドを表していると思いました。独特ですごいインパクトがあり、高級感がありました。プラダ青山では内部と外部のデザインが密接に結びついています。



### コムデギャルソン

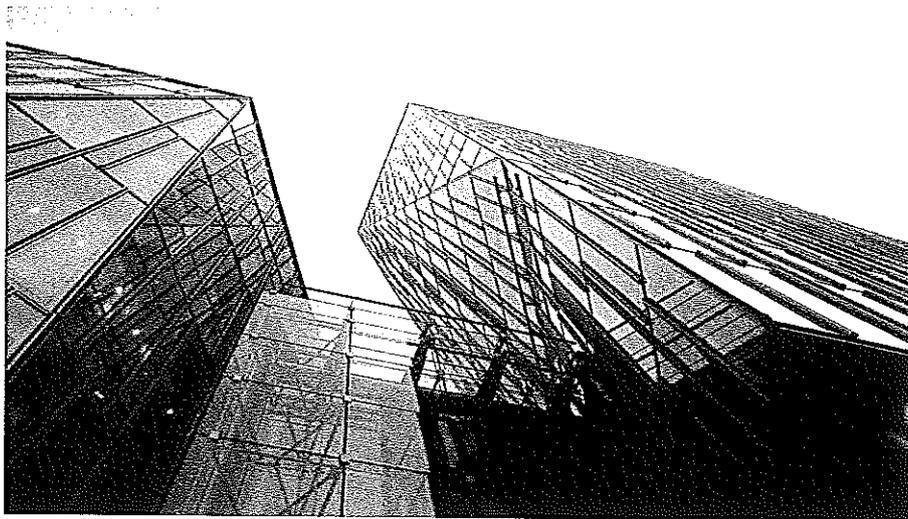
一階と他の階のギャップがとても良かったです。他の階は普通のビルの感じなのに、一階は近未来的な感じでよかったです。一階の近未来感を出しているガラスの曲面が印象的でした。

## スパイラル

外観は積み木を積み重ねている感じがしました。中に入るとお店のデザインがさまざまに美術・音楽・デザインというアートが多様に展開されているアートセンターという感じでした。

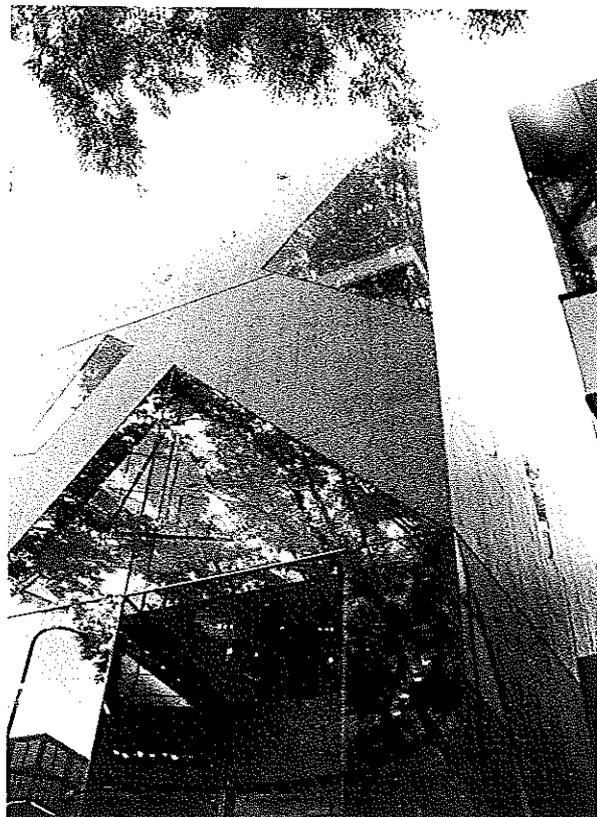
Ao

見る角度によって違うような感じがしました。日影やビル風に配慮しているため、この形状になったそうです。商業ビルのエントランスには花屋があり、それによって建築が華やかになっていました。



## TODS 表参道ビル

今回のウォークラリーで1番いいと思いました。  
この場所にあるのがいいと思いました。良く見ると、ガラスに冊子が無く、ガラスがコンクリートに挟まっていて面白いと思いました。  
また、シルエットでケヤキを表しているすごいと思いました。

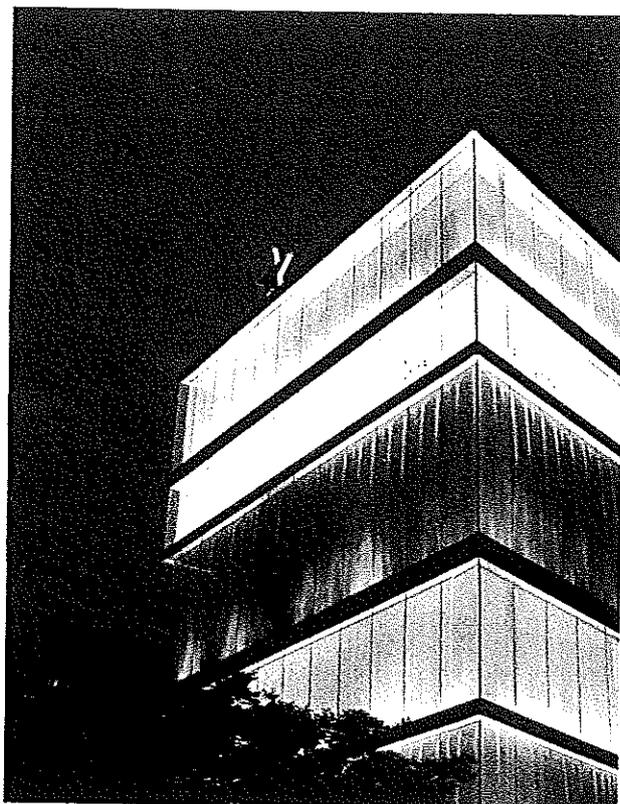
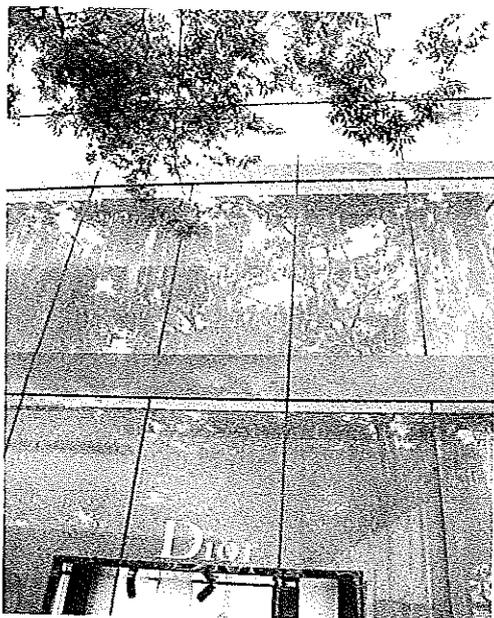


## LOUIS VUITTON 表参道

直方体が不規則に積み重なった建築である。LOUIS VUITTON はトランクがなので、この構造はしっかりブランドの特徴を表していて、おしゃれだと思いました。今回は外観だけだったので、中にも入ってみたいと思いました。

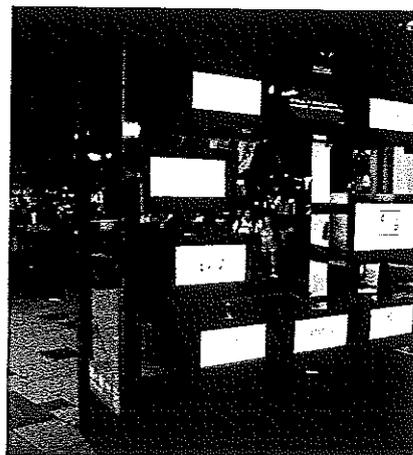
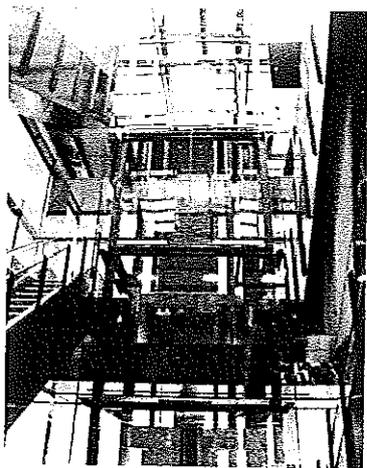
### ディオール表参道

ドレープ状のアクリルスクリーンが柔らかく全体をつつむようなイメージで作られています。クリアで弱そうな感じなんだけど、ずっしりした感じもしました。夜はいるイルミネーションにより、層ができていて、昼間とは違う感じでした。



## GYRE

一層一層が回転したようにねじれていて、それにより生じる空間にテラスを設け、豊かな環境を創出しています。不規則でおもしろい構造をしていると思いました。中に入るとエスカレーターやエレベーターは光沢のある黒で、それとは対照的にお店は真っ白で、黒と白の対象が良かったです。看板のデザインにこっているのがおしゃれだと思いました。



## 表参道ヒルズ

中が印象的でした。螺旋のようになっていて、階段を上らずに上に上がってなおかつ、お店も見れるので、階を上がっている感覚はありませんでした。こういう方が、買い物しやすいと思いました。表参道ヒルズの前だけに水が流れていてなぜだか疑問に思いました。表参道のケヤキ並木との調和を考えて、建物の高さがケヤキ並木を越えないように配慮されている。このような何気ない配慮がおしゃれだと思いました。



これらの建築は昼と夜では違う感じがあると思うので、今度は夜に行ってみたいと思いました。

# 「ワークラワー」の感想

10M1130 八木光

(下吹越ゼミ)

今まで多くの講義の中で教授が「建築はパソコンの得意を褒めたり

終わりで、実際には無いといけ無いのとおっしゃっていた事を思い出しながら今回のワークラワーに臨みました。

私たちが下吹越ゼミは来年度に集合し、主に東京都・青山にある建物を見て回りました。

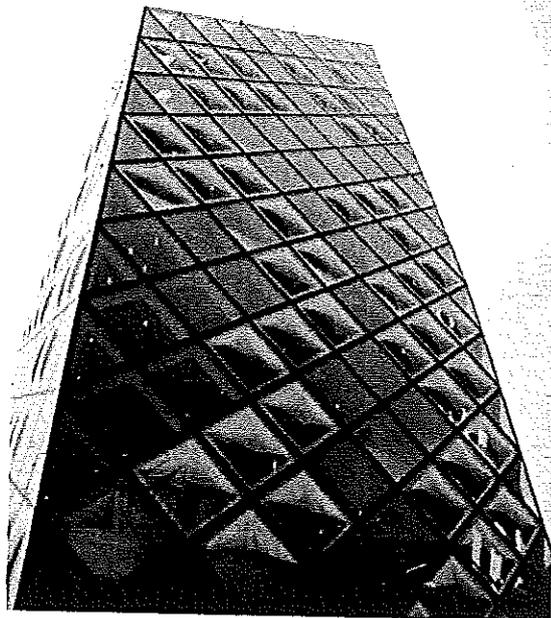
一見、最初に見た建物が、表参道にある「SPIRIT」(2000年)という建物でした。この建物は、



SPIRIT

真にわかるように、様々な形、形態を使って、とてもインテリゲンチヤな建物だと思われました。しかし、説明を受ける中で、最も衝撃的だったのは、端、ある空間に無駄なスペースを設ける必要を感じたことに気づき、とても感動しました。

また、右の建物の「プラダ」のビルでも、見た時にはとても不思議な建物に見え、その周りが別世界のようでした。なぜか、この建物は、



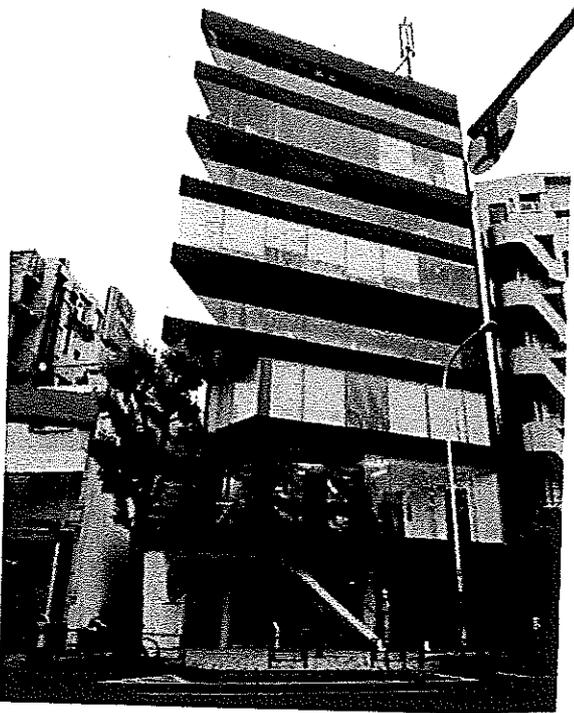
「プラダ」

この建物の下にも、他の建物の足組みにも大変驚かされました。



次に、このウォークラリーで一番印象に残った「表参道」の事にある昔からの住宅地で、この一部の風景を見ると、ここがまるで東京都ではないかの様な気持がして、とても落ち着く。この様な自然の残り住宅地が

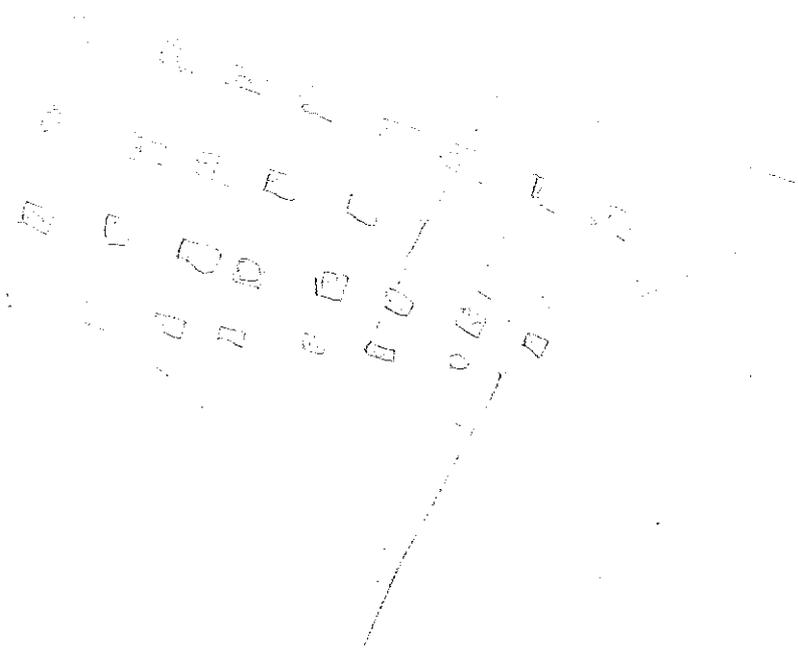
表側の道路で個を主張する建物を裏側で支えている様な気がして、ここから建物や建築物を見るときは、その「裏」にも注意して見ようと思いついた。最後の下の写真はなんと、下町遊学教授が「デザイン(在)建築ビル」そうで、思わず「すごい！」と言葉が出てしまいました。これは外から少しのぞくと牛の標子がわかり、茅草院などの会社が入っていました。その他の教授の「デザイン(在)建物も是非見たい」と思いついた。



ウォークラリーを終えて、実物を見る大切さを実感しました。写真を見てから見た絵を指と見るのでは、印象が全く異なると思いました。ここから建築を学ぶ中で「見ないといけない自然の建築物が、またまたたくさんある」と思いました。今回のウォークラリーで教授やAの笑顔を眺めながら、奥方の視点を教わったので、次回自分で見る時は、奥方の様に注意して建築物を「見」て学びたいと思いついた。

(021131

和附生香



原宿に、ふだん「遊び」に行くのちがって、建物をあらためて  
見ると、色んな特徴のある建物があつておもしろい。  
ここからは、町を歩くとおもしろい、そういうところも見上げて思った。

追加です。

# 表参道を歩いて

10N1131 柳井まり香

私はこの下吹越ゼミ  
のウォークラリーで  
初めて表参道に行き  
ました。表参道を歩  
いて普段は見ないよ  
うな建物など見て、  
私の建築に対する観  
念に磨きがかかりま  
した。下吹越さんの  
デザインした建物は  
とても素敵だと思



ました。今回ウォークラリーに参加して、自分のため  
になったと思います。ありがとうございました。



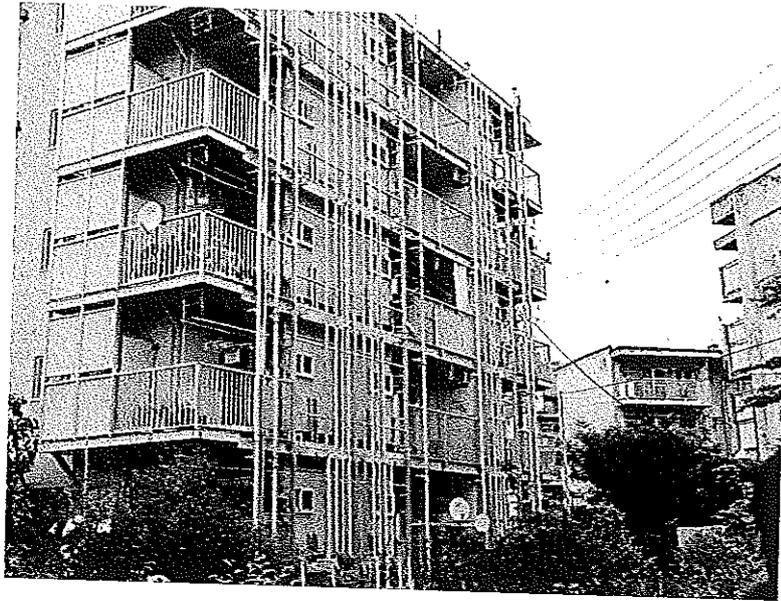
表参道でウォークラリーをしてみて、  
沢山のお店が、そのお店や表参道をイメージして建物を  
つくっていることを知って、また建物を見て考える楽しさ  
を感じることができました。

私は中でも表参道ヒルズは坂で建物が成り立っていて  
表参道と一体化している印象を受けました。

また違う場所でもウォークラリーしてみたいなど  
思いました。

10n1132 弥永望未

いくつか建築物を見てまわったが、一番印象的だったのは原宿団地である。



表参道と聞くと、近代的な建築物が並んでいるイメージが私にはあった。  
しかし一本奥に入るとこの団地のような建物があり、  
近代的な建築物と生活感あふれるこの古い建築物が近い場所に存在しているのは  
とても面白いと思った。

以前建築入門の授業で東京は古い建築物と新しい建築物が  
混在しているのが面白いという話を聞いたが、  
今回のウォークラリーでその意味が少し分かったと思う。  
同時に部屋の中で話を聞いているだけではなく、  
実際に自分で歩き、建築物を見て回らないと分からないことが  
たくさんあるという事も今回分かった。

この原宿団地は建て替えについて問題になっており、  
それも今回一番印象に残った理由である。  
何かを建て、その建築物を将来残していくという事は  
予想以上に考慮しなければならない事があり、簡単な事では無い。  
建築について学ぶという事は、幅広い知識が必要なのだと実感した。